



# 平成30年7月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年6月4日

上場会社名 ティーライフ株式会社  
 コード番号 3172 URL <http://www.tealifeir.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 植田 伸司

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 萩原 俊彦

TEL 0547-46-3459

四半期報告書提出予定日 平成30年6月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年7月期第3四半期の連結業績(平成29年8月1日～平成30年4月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年7月期第3四半期	5,595	0.6	223	27.1	236	35.3	278	15.4
29年7月期第3四半期	5,565	2.8	307	6.9	365	31.7	328	50.2

(注) 包括利益 30年7月期第3四半期 281百万円 (16.2%) 29年7月期第3四半期 336百万円 (54.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年7月期第3四半期	65.47	
29年7月期第3四半期	77.38	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年7月期第3四半期	5,480	4,324	78.9	1,017.50
29年7月期	5,430	4,187	77.1	985.21

(参考) 自己資本 30年7月期第3四半期 4,324百万円 29年7月期 4,187百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年7月期		17.00		17.00	34.00
30年7月期		17.00			
30年7月期(予想)				17.00	34.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

29年7月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当15円00銭 記念配当2円00銭(東証一部指定記念配当)

29年7月期期末配当金の内訳 普通配当15円00銭 記念配当2円00銭(東証一部指定記念配当)

## 3. 平成30年7月期の連結業績予想(平成29年8月1日～平成30年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,908	8.0	443	7.9	449	17.8	406	11.4	95.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 社 (社名) 、 除外 1 社 (社名) コラムジャパン株式会社

(注)詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年7月期3Q	4,250,000 株	29年7月期	4,250,000 株
----------	-------------	--------	-------------

期末自己株式数

30年7月期3Q	96 株	29年7月期	96 株
----------	------	--------	------

期中平均株式数(四半期累計)

30年7月期3Q	4,249,904 株	29年7月期3Q	4,249,940 株
----------	-------------	----------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(当四半期累計期間における重要な子会社の異動) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業の設備投資や輸出が堅調に推移するなか、雇用・所得環境の改善を背景に、個人消費が低調ながら持ち直しの動きを見せ、緩やかな景気回復基調が続いてまいりました。

このような環境のなか、当社グループ（当社及び連結子会社）は引き続き「差別化戦略の推進・将来への布石・強固な経営基盤の構築」を経営方針として掲げ、特定市場でトップシェアを狙うNO.1商品や独自性のあるオンリーワン商品の開発に取り組むとともに、他社にないサービスや顧客との密度の高いコミュニケーションにより、競争優位を基礎とした経営基盤作りに努めてまいりました。さらに、未来への投資として、戦略商品の育成や新規顧客開拓、海外を含めた新たな市場の開拓に注力してまいりました。また、平成29年8月1日に、当社の100%子会社でありましたコラムジャパン株式会社を吸収合併し、物流業務の内製化等、事業運営の効率化を進めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は5,595百万円（前年同四半期比0.6%増）となりました。

損益面では、国内の顧客開拓を強化、海外の市場開拓に向けた先行投資のため広告宣伝費を積極投下したことや、配送業者による配送料金の値上げの影響により、営業利益は223百万円（同27.1%減）、経常利益は236百万円（同35.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は278百万円（同15.4%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、売上高については、セグメント間取引の調整後の数値であり、セグメント利益については、セグメント間取引の調整前の数値であります。

## (小売事業)

小売事業におきましては、「メタボメ茶」や「ダイエットプーアール茶」等主力商品に加え、「チョウ活宣言®活性フローラ」等の継続利用が見込まれる商品を展開し、新規顧客の開拓や定期会員の確保に注力するとともに、新ブランドとしてお茶の成分を使用した基礎化粧品「teatea（ティアティア）」を発売いたしました。EC市場におきましては、大手外部モールにて当社商品のシェア拡大を進め、楽天市場にて「楽天ショップ・オブ・ザ・イヤー2017」のダイエット・健康部門ジャンル賞を受賞、そのほかネットショップ関連の賞を受賞しております。海外販売におきましては、台湾を中心としたアジア圏の販路拡大に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は3,995百万円（前年同四半期比0.9%減）、セグメント利益は、台湾での事業拡大に向けた先行投資や国内配送料金の値上げ等により、129百万円（同36.8%減）となりました。

## (卸売事業)

卸売事業では、主力となる北欧寝具ブランド「Danfill（ダンフィル）」から新商品を発売したほか、独自のあたたか素材を使用した衣類「Le bois（ルボア）」の品揃え拡充や、顧客ニーズに対応した商品開発、商品パッケージの刷新等により、他社との差別化、ブランドの強化を推進してまいりました。また、ブランド毎に展示会に出展し、販路開拓に努めたほか、欧州の商品展示会に参加し新商材開拓に取り組むとともに、販売先の業務縮小等により売上が伸び悩んだ商材については、販路の見直しを進めてまいりました。

この結果、売上高は1,540百万円（前年同四半期比3.5%増）、セグメント利益は、利益率の高いインテリア雑貨の販売鈍化に伴う売上原価率の悪化、取引先の経営不振に伴う法的処置による貸倒引当金の増加等により、46百万円（同23.4%減）となりました。

## (不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業では、立地条件の良さから倉庫の賃貸を推し進め賃貸エリアを拡大いたしました。その結果、売上高は60百万円（前年同四半期比32.1%増）、セグメント利益は51百万円（同29.2%増）となりました。

なお、平成30年3月30日に新たに当社物流センターに隣接する土地及び建物を購入いたしました。既にテナントが入居している倉庫の承継物件であることから、今後収益不動産として本事業に寄与いたします。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、5,480百万円（前連結会計年度末比50百万円増）となりました。

流動資産の減少（同381百万円減）は、主にたな卸資産が31百万円、有価証券が28百万円、流動資産のその他が107百万円増加したものの、現金及び預金が555百万円減少したことによるものであります。

固定資産の増加（同431百万円増）は、主に収益不動産の取得により有形固定資産の土地が433百万円、有形固定資産のその他が21百万円増加したことによるものであります。

② 負債

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、1,156百万円（前連結会計年度末比86百万円減）となりました。

流動負債の減少（同2百万円減）は、主に賞与引当金が44百万円増加したものの、買掛金が17百万円、前事業年度に係る法人税等の支払により未払法人税等が35百万円減少したことによるものであります。

固定負債の減少（同84百万円減）は、主に長期借入金が74百万円、固定負債のその他が16百万円減少したことによるものであります。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、4,324百万円（前連結会計年度末比137百万円増）となり、この結果、自己資本比率は78.9%となりました。

純資産の増加は、主に利益剰余金が133百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成29年9月4日の「平成29年7月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,747,933	1,192,366
受取手形及び売掛金	719,194	723,726
有価証券	—	28,000
たな卸資産	644,034	676,001
その他	108,469	216,156
貸倒引当金	△13,768	△11,985
流動資産合計	3,205,863	2,824,266
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,035,700	1,469,435
その他(純額)	461,824	482,882
有形固定資産合計	1,497,525	1,952,318
無形固定資産		
のれん	6,652	—
その他	59,444	55,202
無形固定資産合計	66,096	55,202
投資その他の資産		
投資有価証券	211,956	209,759
その他	452,572	450,750
貸倒引当金	△3,379	△11,428
投資その他の資産合計	661,148	649,082
固定資産合計	2,224,770	2,656,603
資産合計	5,430,634	5,480,869
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	167,855	150,245
1年内返済予定の長期借入金	99,996	108,329
未払法人税等	54,631	19,171
賞与引当金	51,627	95,651
役員賞与引当金	9,220	10,270
ポイント引当金	11,772	3,052
その他	361,964	368,090
流動負債合計	757,066	754,810
固定負債		
長期借入金	200,012	125,015
退職給付に係る負債	58,734	65,732
その他	227,734	210,993
固定負債合計	486,480	401,740
負債合計	1,243,546	1,156,550
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	356,625	356,625
資本剰余金	326,625	326,625
利益剰余金	3,492,944	3,626,727
自己株式	△102	△102
株主資本合計	4,176,091	4,309,874
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,974	15,271
為替換算調整勘定	△979	△826
その他の包括利益累計額合計	10,995	14,445
純資産合計	4,187,087	4,324,319
負債純資産合計	5,430,634	5,480,869

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日)
売上高	5,565,058	5,595,679
売上原価	1,933,388	1,988,370
売上総利益	3,631,669	3,607,308
販売費及び一般管理費	3,324,586	3,383,402
営業利益	307,082	223,906
営業外収益		
受取利息	1,413	938
受取配当金	317	285
デリバティブ評価益	45,954	5,062
償却債権取立益	—	5,557
その他	21,228	8,260
営業外収益合計	68,913	20,105
営業外費用		
支払利息	476	378
上場関連費用	7,500	—
行政処分対応費	—	5,394
その他	2,685	1,925
営業外費用合計	10,661	7,698
経常利益	365,334	236,313
特別利益		
固定資産売却益	13	—
補助金収入	95,512	—
保険解約返戻金	—	852
受取保険金	3,000	—
特別利益合計	98,525	852
特別損失		
固定資産除却損	8,767	329
特別損失合計	8,767	329
税金等調整前四半期純利益	455,092	236,836
法人税等	126,216	△41,443
四半期純利益	328,875	278,279
親会社株主に帰属する四半期純利益	328,875	278,279

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年8月1日 至 平成29年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年8月1日 至 平成30年4月30日)
四半期純利益	328,875	278,279
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,120	3,296
為替換算調整勘定	△933	152
その他の包括利益合計	7,187	3,449
四半期包括利益	336,063	281,729
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	336,063	281,729
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当社の連結子会社でありましたコラムジャパン株式会社は、平成29年8月1日付で当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	小売事業	卸売事業	不動産賃貸事業			
売上高						
外部顧客への売上高	4,031,066	1,488,254	45,737	5,565,058	—	5,565,058
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,516	16,901	3,420	23,837	△23,837	—
計	4,034,582	1,505,156	49,157	5,588,896	△23,837	5,565,058
セグメント利益	204,511	61,023	40,127	305,662	1,420	307,082

(注) 1. セグメント利益の調整額1,420千円は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当連結会計年度末より、「その他」で区分していた不動産賃貸事業について、量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。これに伴い、当第3四半期連結累計期間の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で記載しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成30年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	小売事業	卸売事業	不動産賃貸事業			
売上高						
外部顧客への売上高	3,995,123	1,540,121	60,433	5,595,679	—	5,595,679
セグメント間の内部 売上高又は振替高	34	527	—	561	△561	—
計	3,995,157	1,540,649	60,433	5,596,241	△561	5,595,679
セグメント利益	129,210	46,771	51,838	227,820	△3,913	223,906

(注) 1. セグメント利益の調整額△3,913千円は、セグメント間取引消去等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。